

講演

# 横浜市の下水道分野における国際貢献と水ビジネス

渡邊 聡  
Satoshi Watanabe

横浜市環境創造局 担当理事  
横浜市環境創造局下水道計画調整部 部長

渡邊氏には、地方自治体が国際貢献や水ビジネスに関わる際の課題や、横浜市の下水道分野における国際貢献活動として、横浜水ビジネス協議会の活動内容や事業展開のスキーム及び具体的な実施案件プロジェクトの一例をご紹介いただきました。

■ 講演内容～講演レジュメより～

21世紀は「水の世紀」とも言われています。アジアを中心とした新興国等では、人口の増加や経済発展、工業化の進展等により水質汚染が深刻化し、水処理に対する需要が急速に高まっており、海外の水分野におけるビジネスチャンスの拡大の可能性を秘めております。世界における水ビジネス市場では、スエズ（仏）、ヴェオリア（仏）といった欧州の水メジャーを中心に民営化が進められ、設計から管理・運営までのノウハウを用い、積極的な海外展開を推進しております。また、最近では、シンガポールや韓国といったアジアの国々も積極的に海外水ビジネス市場に進出してきております。

一方、日本の企業も水ビジネス展開を進めているものの、要素技術や施設建設が主体であり、管理・運営能力に乏しいため、海外展開を積極的に進めて行く上で課題となっております。今後は、管理・運営のノウハウを有している自治体と連携し、水ビジネス展開を推進していく必要があります。

横浜市の下水道は、1950年の雨水ポンプ場の着手からスタートし、現在では、11箇所の水再生センターと2か所の汚泥資源化センターが稼働中であり、管路延長は11,000 kmを超え、普及率が99.8%にまで達し、市民が下水道を安心して使えるようになりました。環境への配慮として、高度処理の導入、再生水の活用、汚泥の有効利用等を用いた海外への技術支援を行うまでに成長し、高度な技術を持つ先進都市として認められています。

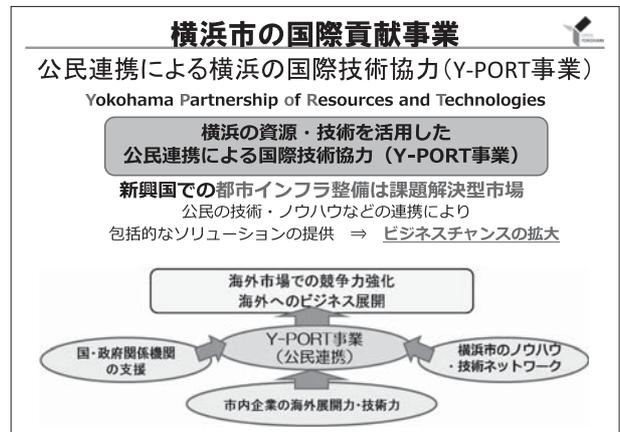
横浜市の下水道の国際貢献については、1970年代

プロフィール

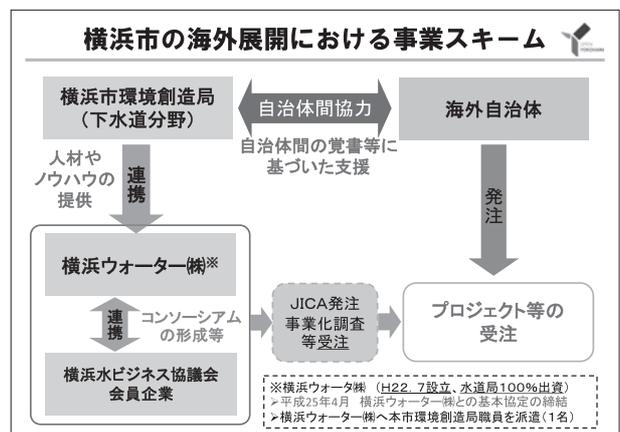


1979年 早稲田大学大学院建設工学修士課程修了  
1979年 横浜市下水道局入局  
2012年 横浜市環境創造局担当理事・下水道計画調整部長

以降、国際会議への参加、新興国からの研修生の受入等により、先進都市として推進してきました。新興国等をはじめとする海外においては、下水道が整備されていない国や、下水道が整備されていても、十分な維持管理がなされておらず、環境への影響が問題とされている国が多くあります。これらの国に共通することは、十分な技術を持った人材が不足していることが挙げられます。横浜市では、そのような国々に対し、技術協力として下水道の計画・設計・維持管理等のノウ



当日ご講演資料より①

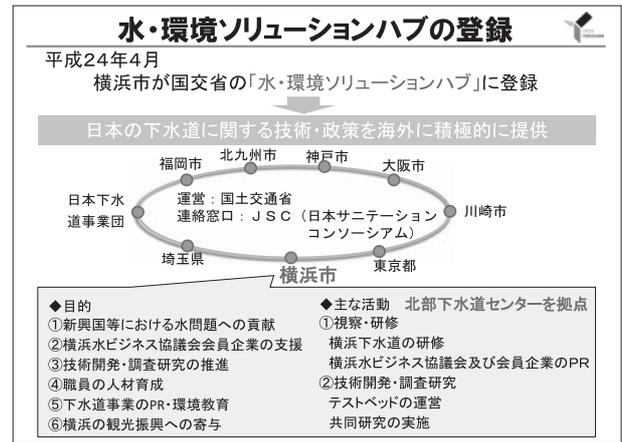


当日ご講演資料より②

ハウを提供することで現地技術者の育成を行うとともに、横浜市市内企業の海外案件の獲得に向け、支援しております。なお、横浜市では、都市づくり全般における「横浜の資源・技術を活用した公民連携による国際技術協力」事業として Y-PORT 事業を関連機関とともに推進しております。

上下水道における支援体制の構築として、平成 23 年 11 月、「横浜水ビジネス協議会」を設立し、上下水道分野が一体となり、公民連携により新興国等における水環境に関する問題解決や、市内企業のビジネスチャンスの拡大を通じて、市内経済の活性化を図るとともに、横浜ブランドの向上や職員の人材育成につなげております。

また、平成 24 年 4 月、国土交通省の「水・環境ソリューションハブ」に登録し、平成 27 年度を目標に日本の下水道に関する技術・政策をより積極的に海外へ提供する場を整えていきます。



当日ご講演資料より③



ご講演いただいた渡邊氏